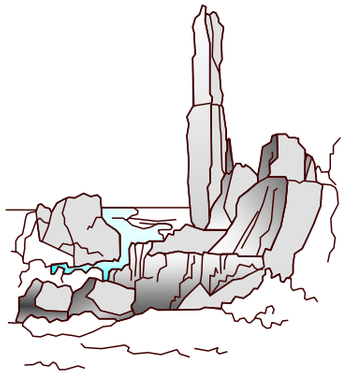
明日へ向かって

第３学年　　学年だより
令和５年　　１２月９日
第５３号

　進路決定のための三者面談終わりました。ということは多くの人の進んでいこうとする方向がほぼ確定したということになります。
　一人一人がそれぞれの思いをかみしめたことと思います。しかし、これで終わったわけではありません。山登りに例えれば、長い尾根道、そして、そのずっと先の山頂までは遥かな道のりです。今は、はじめの方の一つの峠を通過したところにすぎません。

　これからも一つ一つの峠を越えながら自分の目指すところへと進んでいくのです。
一つ一つはちょっとしたものにしか感じられないかもしれませんが、これからの君たちの生き方につながる大切な通過点でもあるのです。
「『受験』のためという、たった一つの峠がなんとか越えられればいい」と考えるのならば、その瞬間、あなたは残念な言葉を吐き、悲しい行動をとるようになります。人生の、この一つ一つの峠をどう越えるかによって、目指すものが変わっていくことも生じますし、峠の手前で真剣に考えた結果、自分の意志で別の頂上を目指す生き方をしていくこともありましょう。



　自分自身の人生です。それぞれの時期を大切にし、真剣に考え、目標をもって日々努めていきましょう。

さて、今のクラスの様子を冷静に振り返ってみましょう。今まで歩んできた中学校生活、今まで築き上げてきた三年生への評価、これを保持していると言えるでしょうか。
推薦願や併願優遇願を出しても進路が決定したわけではありません。この先の合格発表を見て初めて決まるのです。入試を目指して、あと数ヶ月は今の努力を続けるわけです。
　「早く試験が終わらないかな」と不安になったり、心配になったり、そんな日々がまだ続きます。でも、そんな時こそ、今この時に頑張っている友の顔を思い浮かべてください。苦しい気持ちは、誰しも同じです。先輩たちが歩んで来た道でもあります。

「<u>ひとつをうしなうことなしに別個の風景にはいってゆけない</u>」
「<u>大きな喪失にたえてのみ　あたらしい世界がひらける</u>」

まさにこの心境であります。

ひとつの峠を越えて

峠

峠は決別をしいるところだ。
峠には訣別のためのあかるい憂愁が
ながれている。
峠路をのぼりつめたものは
のしかかってくる天碧に身をさらし
やがてそれを背にする。
風景はそこで綴じあっているが
ひとつをうしなうことなしに
別個の風景にはいってゆけない。
大きな喪失に耐えてのみ
あたらしい世界がひらける。
（後略）

真壁　仁

　この小さな峠、そしてちょっと大きな峠を三年生全員が、最善の努力で乗り越えることを願っています。
　ところで、みなさんは学校見学をいくつか済ませていると思いますが、いかがですか。「いや、まだで…」という人は、急いで出向きましょう。
　その際には、服装や行動に気をつけることは言うまでもありません。面談を行ったあと、私立高校に相談の電話をするとたいていの私立高校の先生は、あなたたちが学校見学や相談会に行った時の様子を覚えています。記名した人は名前も残っていて、相談する際名前をあげると、「ああ、その生徒さんでしたら見学会にいらしてますね」とすぐに返事が返ってきます。すでにその時から受験生は見られているのです。

また私立高校については、願書等の提出書類は各自でそろえて、学校で記入する必要のある書類は早めに担任の先生に提出するようにして下さい。先生たちは、授業と並行して入試相談の書類を整え、１５日からの入試相談に臨みます。

冬休み中も、先生方は休みではありません。授業がないのを利用して、１月の受験に向けて書類を作成します。一人一人に対して別々の書類を作成するのですから、時間がいくらあっても足りない位なのです。まして、何校もの学校を受験しまくるためには、あなた自身の努力の他に、その受験する学校の数だけ書類を作成する先生方の苦労があることを忘れないでください。

もう一つ心に留めておいてもらいたいのは、周囲の人たちへの配慮です。

受験形態によって、早い人は１月下旬に進路が決定します。自分は決まっても、周りには必死になって２月、あるいは３月（二次試験など）の受験と取り組んでいる人がいるはずです。不用意な発言や態度でそうした人達を苦しめることのないよう気を配って下さい。早く進路が決まった人がこれからの人に勉強を教えたり、卒業に向けての取り組みやクラスの係活動などに進んで取り組み、大変良い雰囲気のまま卒業式を迎えられるということがよくあります。皆さんのこれからの姿がそうであって欲しいと期待してやみません。

なお、都立高校については、三者面談で仮決定した高校に本当に合格出来るかどうかを判断するには、まだ資料が少な過ぎます。都の校長会では、１２月現在での都立高校別の進路希望を、都内の全中学校を対象に集計し、その結果が１月中旬に新聞発表されます。これを受けて、大手模擬試験会社が出している合格基準点に変動が見られます。

このように、**今はバタバタする時期ではないのです。最上級生らしい、落ち着いた学校生活を送り、中学卒業という節目、大きな峠に向かって邁進していくのです。そして、自分の進路が現実のものとなるよう、不断の努力を継続させていくことこそ大切です。**

今後の予定

１１日（月）	生徒会長会（部長）
１３日（水）	検定学習会（数学）
１４日（木）	避難訓練
１５日（金）	⑤⑥２学期の振り返り　※私立入試相談
１６日（土）	※私立入試相談
１７日（日）	英語スピーキングテスト（ESAT-J）予備日

入試相談って？

○入試相談に関係する生徒は誰ですか？

都内（一部都外）私立高等学校の**推薦、併願優遇、第一志望**の制度を利用して受験を希望する人。

○何のために、何をするのですか？

九中の先生方が、推薦、併願優遇、第一志望の受験希望者の資料（成績・いろいろな活動など）を私立高等学校の先生に提示して、その受験希望者の推薦入試や併願優遇資格が得られたことを確認したり、その受験希望者の合格の可能性を示してもらうのが目的です。

○入試相談で、条件（推薦基準や併願優遇基準など）を満たしているとどうなるのですか？

まずは、推薦、併願優遇、第一志望という形での受験資格が得られ、併願や第一志望の場合は、**優遇措置**がとられます。また、推薦の場合には、学校によって、適性検査・小論文・面接などの結果をふまえてから合否が決定したり、推薦基準に到達した場合に、優遇措置がとられたり、制度が異なるので、確認しましょう。**入試相談を行った学校は、必ず受験する**ことになります（例外として、例えば私立高等学校の併願をとったけれど、都立高等学校の推薦入試で合格したというような場合、出願や受験しなくても良いという学校もあります。ただし、対応は高校によってまちまちなので、確認が必要です）。推薦基準等の条件を満たしていないと判断された場合には優遇措置等はなく、一般受験しかできません。

○いつ行われるのですか？

ほとんどの学校が１２月１５日から開始します。２～３日間で終了する学校もあるため、〆切を過ぎた後で、「何とかなりませんか」といわれてもどうにもならないことがほとんどなので、書類等の期日をしっかり守ることが大切です。

○「合格の可能性が高い」といわれた学校は絶対合格するのですか？

答えは、ＮＯです。具体的に不合格になったケースをあげてみると…

- 推薦の場合…適性検査で得点ができなかった
  面接で非常識な発言・態度をとった
  小論文、・作文が書けなかった　など
- 併願優遇の場合…入試科目の得点が明らかに低かった
  面接で非常識な発言・態度をとった　など

もちろん、私立高等学校は、学校によってようすが異なりますが、受験にふさわしくない態度・格好と得点力の２点が、不合格の主な理由になるようです。